

# おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー部報第 15 号 (9 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y2B優勝！2シーズンぶりのY1昇格決定！！

9 月 17 日 (土) Y2B 第 13 節新庄東 A 戦が酒田市北港緑地公園にて行われました。この部報ではお伝えしておりませんでした、**実は山東、Y2B にて前期から独走状態に入り<sup>1</sup>、残り 4 節のところ (第 11 節) の時点で勝ち点 3 を得れば Y2B 優勝というところ (マジック 2) まで来ておりました。**が、第 11 節米工戦引き分け (によりマジック 1)、第 12 節引き分け以上で優勝が決まる状況で東海 B に負け、**2 回お預けを喰らっていたのです** (もちろん自らが招いた)。ということで、地区新人によって一週中断しましたが、**3 度目の正直 Y2B 第 13 節**を迎えました。場所は北港緑地 (天然芝)。私が選手時代はあまり人工芝ピッチが全国になかった<sup>2</sup>ので、経験もほんのわずかですが、個人的には (自分が選手だったとしたら) 天然芝が一番好き。山東の選手はよくわかりませんが。最近の戦績を見るに、「クレー (土) だからダメ」とか「人工芝は相性が良い」とか「天然芝は・・・」などと、ピッチ状況で得手不得手は特別感じない。山東から中型バスを借り上げて酒田まで向かいましたが、私は 3 年生の講習 (8:45~9:50) を終えてから自家用車で酒田に向かう。一人で長距離運転するのが好きでない、**山形大学 4 年の OB 大築くん (臨時 GK コーチ)** を誘い、二人で酒田に向かう。

相手は新庄東 A。Y2B にてここまで新東は苦しい戦いを強いられている。以前は山東同様に Y1 に在籍し、鎬を削りましたが、ともに現在は Y2 の苦しい境遇。そして最北地区の雄としては、今期のリーグ戦は不本意と思われる。ただ、**o 野新監督のカラー**が徐々に浸透してきて、後期の戦いは迫力満点<sup>3</sup>。**まずは球際の争いで負けたくないことが徹底されている。また前線の長身の選手にロングボールを送る攻撃に迷いが無い。**この節で優勝を決めたいが、新東の圧力をしっかりかわして山東のリズムに持ち込めるのか、不安なまま会場入りしました。会場には、**多数の保護者と清野総監督・後藤報道局長・工藤先輩という「いつもの御三方」**がいらっしゃる。**多くの方に見守られ、幸せな選手たち。**いざキックオフ。

試合が始まると、最近の山東を象徴するようなプレーの連続。まずゴールキックを簡単に跳

<sup>1</sup> 前期は 7 戦のうち、6 勝 1 分けで勝ち点 19 を得る荒稼ぎをしました。新チームメンバーも出場しておりますが、やはり 3 年生の存在感は大きかった。また、独走の原因は、他のチームが潰し合いをしてくれて、追走するチームが終盤まで現れなかったこともあげられます。要は「ついていた」ということ。上位が強豪チームの B チームばかりの Y2A に在籍してたらどんなシーズンを送ったのかは、興味ある問いです (Y2A と Y2B は抽選によって分けられるのでレベル差は一応ないことになってます)。顧問の鼻目もあります、少なくとも前期は走ったのではないかと思います。

<sup>2</sup> あっても、「人工芝は膝や腰に負担がかかり故障が多くなるから、あまりやらない方が良い」という意見が定説でした。近年人工芝の品質が向上したということですね。

<sup>3</sup> 第 12 節新東 A と山南との対戦を主審したのですが、両者の球際があまりに激しく、戦慄を覚えました。

ね返される（主にヘディングで）。大きく蹴っては戦況を変えられないと、DFにショートパスしてビルドアップに入ると、DF-MFの間で当たり前のこと（止める蹴る）が当たり前にできないため、相手のプレッシャーをいなせず、跳ね返される。FWへのパスは「コースがずれる、浮く」と質が悪いし、FWも確保するだけのスキルにかける。ということで、**山東がボールを持っている（というかリスタートを繰り返している）時間が長いものの、主に山東サイドのエンドで試合が展開される**。地区新人山南戦とまったく同じ展開。相手チームとしては簡単です。当たり前にディフェンスを続けるだけで相手ゴール近くでサッカーができるのですから。もちろん前線から積極的に嵌めにいく新東の守備戦術<sup>4</sup>とそれを的確に実行する選手には素晴らしいものがありました。相手の前に入ってインターセプトを狙える位置を常に取る選手の距離感・角度に、新監督の指導を感じました。こんな悪い流れの中、**10分過ぎにようやく初シュート**が生まれる！左サイド高い位置までボールを運んだ**2年左SB黒豹ことリキ**が切り返して中を覗く。「なんでスピードもありそこそこスキルもあるのに深く挟むことをまず考えず、すぐ切り返してしまうのかな～」と不満を持って眺めていると、リキの右足から放たれたのは質の良いセンターリング。「おっ」とベンチで前のめりになると、**神出鬼没な動きでマークを外してゴール前に侵入した2年ベジータことベジ**がワンタッチで合わせ、**ゴールゲット！！** いやいや、この流れの中の得点は有難い。その後も、五分五分の試合展開。特に新東のCKにはヒヤヒヤ。しかしまたまた、そんなどっちつかずの試合展開の中、ゴール前に手厚く攻め込んだ際に山東FWが倒され、**PKゲット**。遠くで観ていて「PKを取るのは厳しいのでは（私が主審だったらPK取れなかったかも）」と思いましたが、遠目でもファールはファールに見えました<sup>5</sup>。ということで、山東PKゲット。それを**3年の中で一人だけ「残った」ユート**が落ち着いて決め、前半2-0。後藤報道局長もHPで書いておられましたが、**良くない流れのなかでも得点を重ねるのが山東の流れ**。まあ山東本来の流れとまでは書きませんが、確かに、一昨年もY2では良くない流れの中よく得点してました<sup>6</sup>。その後、新東にネットを揺らされるも、オフサイドの判定に救われ、**結局前半2-0**。

**後半は時間を追うごとにやっとな山東ペースになった**と言ってよい。アウトサイドを中心に押し込み、サイドを変えながらインサイドもうかがい手厚く攻める時間を長く作ることができた。そんな中、ユートが相手ボールを奪ってGKと1対1になったり（でも豪快に外す）、**最近ボランチにコンバートされた山辺の星2年アダチ**がインサイドからFWを追い越しディフェンスラインを突破したり（これも左足シュートはインサイド回転がかかりゴールから外れる軌道を取る）、チャンスはたくさんあった。HPで確認していたら、**漫才師1年タカヒラ**のゴールすぐ近くでの豪快な空振りもありました。しかし、結局ネットを揺らすことができず。後半も何度かCKを与えてしまい、そこで危ないシーンを作ったものの、幸運にも守り切ることに成功。流れの悪い時に得点し流れの良い時に得点できない中途半端な試合は、**結局後半スコアレスで山東2-0の勝利**となりました。

これにより、**残り1節を余してY2Bの優勝が決定**いたしました。9月18日の保護者激励会の壇上でも話しましたが、シーズン開幕前、齋藤GKコーチと寿司をかけた賭けでの私の予想

<sup>4</sup> 相手一人に対して守備側も一人をぶつけに行きマークに穴がないようにすること。

<sup>5</sup> この表現、サッカー通の方はわかりかと思いますが、PKって試合を決めてしまうものなので、審判としても「どう見てもファール」との確信がないと、笛を吹きづらいもの。それが自然な心情。ただし、ペナルティエリア内と外とでファールの基準が違うというのもおかしな話。なので、うまい審判の方は自信を持ってPKの笛を吹けることでしょう（私は全くその域に達していない⇒ペナルティエリア内だと守備側ファールの判定が厳しくなる）。

<sup>6</sup> ということは、このサッカーはY1では通じないということですね。

順位は2位、齋藤さんは1位だったので、**顧問の予想以上に選手は頑張った**ことになります。注1にて書きましたが、**やはり3年生の頑張りが大きい**。そして、その先輩の気持ちを受け継いだ新チームも予想以上に頑張りました。ということで、**2シーズンぶりのY1復帰が決まりました**。今年Y2で戦っていて感じました。山東って、Y1とY2の間に位置するチームなんだな、と。Y2ではそこそこやれるもののY1では力不足。それを昇格降格を繰り返すエレベータークラブと呼ぶそうですが、近年の山東を見るとまさにこれ（Jで言えば我がモンテにも当てはまる）。来季は残留にかなり苦しむものと予想されます。

とまあ、来季の話をしてここの話をするのは、ちょっと早いか。まだY2Bも終わってませんからね。**最終節の相手は山南!** 山東にとって消化試合ではありますが、もちろん山南には負けられない。そして、10月1日・2日の進学校大会@蔵王坊平を経て、翌週から選手権県予選が始まります。勝ち癖をつける意味でも、文武ともにライバルチームだという意味でも、そして後述のように地区新人で敗れており2連続で負けられないという意味でも、負けられません。応援よろしくをお願いします。

**9月24日(土) Y2B 第14節(最終節) 山形南戦 9:00~ @山形市球技場**

手違いで、13時までしか会場確保できていなかったものですから、山東 VS 山南を9:00開始の第1試合とし、東海B対新東Aを11:00開始の第2試合とする変更がありました。9:00と早いキックオフとなりますが、よろしくお願致します。

## 地区新人戦/県大会への切符を得る

9月10日(土)11日(日)地区新人戦が行われました。既述の試合よりも日程的にはこちらが早いのですが、上の記事は一応優勝祝賀ということで先に掲載させていただきました。ということで、Y2B第13節の前の週に地区新人が開催されました。**村山地区には、登録選手数・チームの関係で県大会への枠が5つ、そして県総体ベスト4に残った村山地区のチームが3つあることからさらに3枠与えられ、計8枠与えられている。県新人は全16チームで行われますので、その半数が村山地区のチーム**ということになる<sup>7</sup>。村山地区所属としてはうれしいのですが、最北地区の枠は今年(登録選手・チームの減少により)2から1に減ったということもあり、山形県全体での強化を考えるとこの地区間不均衡はこのままでもいいのか、考えさせられる。

さて、紙幅の関係もあるのでスピーディー解説。山東の**初戦は寒河江工業@山形明正**。山形中央前顧問のK村先生率いるチーム。アップで行われる基礎を観ていると、かなりきびきびとして動きで集中して行われており、K村先生の指導力を感じさせられる。試合は後ろから丁寧に作りアウトサイドが積極的に仕掛ける攻撃がうまく行き、**5対0**で勝利。2回戦はその日のうちに**ホームの明正**と。試合は前半はどっちつかずの試合展開、後半は山東ペース。ただ、この試合明正はブロックを後方に敷いて堅守速攻のゲームプラン(と思われる)。山東の攻撃をわざと呼び込んでいると言ってもよく、山東が攻めているのををもって山東の流れと呼べるか怪し

<sup>7</sup> ちなみに県総体は24チームで開催。

い。その証拠に、結局この後半、攻めているようで決定的シーンを作れなかった（崩し切れなかった）。スコアレスのまま 60 分が過ぎ、即 PK 合戦へ。**この PK 合戦、以前タダの代（山東第 62 回卒<sup>8</sup>）が 2 年の時選手権準決勝で羽黒と 15 人くらいまで続いたのを超えました！ 19 人か 20 人まで続く。**レベルの高い PK 合戦とは呼べませんでした。結局その PK 合戦に敗れ、翌日地区大会の聖地落合（スポセン）にて山南と対決。その山南戦、序盤こそ攻め立て、**中山町の星 1 年フツシ**の迫力あるドリブルから **2 年ベジ**が合わせ先制するも、Y2B 第 13 節新東戦前半のような**山東がボールを持っている（というかリスタートを繰り返している）時間が長いものの、主に山東サイドのエンドで試合が展開される**試合をやってしまう。結局山東ゴール前での時間が長い分ミスが失点に直結するわけで、やはりミスがらみで同点にされ、その後**山東第 65 回卒の OB アカガワ**の弟に仕事をされ、逆転され、残り 10 分での逆転負けを喰らう。ということで、**最後の 8 番目の切符をめぐって最終戦山本**と対戦。その山本戦。焦りからチグハグなところもあり、内容的には厳しいものがありました。延長に入るかと思われた<sup>9</sup>最後の最後に、冬場**志田トレーナー所属の楽トレスペース Green**に通い**肉体改造しサッカーのパフォーマンスを劇的に向上させた 2 年カイト**が FK を決め、ギリギリのところでも県新人の切符を得る。

大会は苦しかったです。山南戦を経て山東の課題が浮き彫りになり、その点で有益でした。応援ありがとうございました。

## 選手権・県新人 保護者激励会 盛会

9 月 18 日（日）三連休中日に、**選手権・県新人前の保護者会主催の激励会**がホテルキャッスル山形で開かれました。前日 Y2B で優勝を決めたので、優勝祝賀会の様相も呈しましたが、顧問の心境としては一昨年の最終節でのギリギリの昇格そしてその翌日の激励会と違って、祝勝会の気分ではない<sup>10</sup>。後援会からは、**清野名誉会長（総監督）、岸会長、後藤報道局長、芹川トレーナー、齋藤 GK コーチ**がお越し下さる。まず、先だっの地区新人で普段すがらない神にも祈ったなど淡々とした口調ながらユーモアがちりばめられた**佐藤保護者会長の挨拶（佐藤節）**に始まり、顧問今野の話、そして**清野名誉会長の現役選手への苦言の挨拶**を経て、**川野副会長による音頭**で乾杯。例年私から保護者席に注ぎに回るのですが、今年の保護者の皆さま、注ぎに来るのが早い！ 私が行く前にどしどしいらっしゃる。

そして中盤は来賓の皆さまや志村顧問からお話を頂戴する。個人的には後藤報道局長の「話の代わりに『万歳三唱』が印象的でした。そして、1 年生の出し物。別室で何人かの保護者の皆さまと密談していたもので、あまり観ていませんが、また**漫才師タカヒラ**が実力の片りんを披露していた模様。タカヒラよ、早く off the pitch の存在感を on the pitch のそれが上回りなさい（無理かな～）。そして選手諸君一人ひとりの抱負、続いて**川野副会長によるエール**で選手を激励して、閉会となりました。

2 次会も同会場で行われ、選手だけでなく顧問・コーチも英気を養いました。**保護者会の皆さま、ありがとうございました。**

<sup>8</sup> ユートの代は 3 月 3 日に第 67 回卒になります。

<sup>9</sup> 初日と異なり、この試合には延長戦がありました。

<sup>10</sup> 一昨年この保護者激励会にて優勝を心の底から祝いましたが、翌年ひどいリーグ戦を経験しているからかもしれないし、今年は独走したということもあり、最後の最後やり遂げた実感がないからかもしれません。